

医療被ばくについて

私たちは、宇宙線や大地・水などから常に自然放射線という避けられない被ばくをしています。この自然放射線を年間の量でみると一人当たり約2.4ミリシーベルトという量を受けています。臨床的に放射線を被ばくしても、障害の症状が現れないというしきい線量は、100ミリシーベルトです。ただし、この量は、全身が一度に受ける量です。同じ線量でも分割したり、身体の一部被ばくの場合は、障害の程度はもっと軽くなります。

エックス線検査における被ばくは、胸部のレントゲンを例にとりますと約0.1ミリシーベルトの局所被ばくです。新生児や小児についてはもっと低い値になります。

放射線科では正当化と最適化に努め unnecessary な被ばくをさせないよう常に注意しています。医療においては、患者様に十分に大きい利益があると考えられる場合にのみ放射線を使用しておりますので、安心して受診してください。不安な方は検査前に医師または診療放射線技師に相談してください。

正当化

- ・放射線診断あるいは治療は、それによる利益とそれにともなう放射線障害のリスクを考え、さらに放射線被ばくをともなわない検査法考慮し、利益がリスクを上回る場合のみ行う。

最適化

- ・放射線診断あるいは治療上の要求を満たしたうえで、患者様の被ばく線量をできるだけ少なくすること。